

令和元年度 廿日市市学校保健会総会

6月29日（土）に、廿日市市商工保健会館において、総会が開催されました。議事が審議されたあと、「がん教育」と題した講演がありました。

「学校保健会」とは、どのような活動をしている組織なのでしょうか。

- 1 目的・事業 この会は、関係者相互の親和協力により学校教育における保健衛生の研究と普及発達を図り、これが施策を寄与することを目的としています。
- 2 構 成 員 会長を、佐伯地区医師会会長とし、廿日市市教育委員会及び、廿日市市内の小中学校の学校医・学校歯科医・学校薬剤師・PTA 会長・校長・保健主事・養護教諭によって組織されています。
- 3 予 算 廿日市市内の小中学生一人あたり 45 円と1校あたり 1,000 円の負担金、医師会・歯科医師会・薬剤師会それぞれから 135,000 円の補助金を受けて、約 100 万円で運営されています。
- 4 活動内容
 - 定例総会 1回
 - 理事会 2回
 - 廿日市市学校保健会研究協議会 11月27日（水）開催予定
 - ・研究発表 原小学校 四季が丘中学校
 - ・講演 眼科医 宮田 章 先生
 - 保健リング 第57号の発行

総会 講演内容

「がん教育」 JA廣島総合病院 呼吸器外科 渡 正伸 先生

人生100年時代の到来とともに、生涯で2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなるといわれ、中でも肺癌で死亡する人が一番多く、2016年の肺癌死亡者数は77,300人とされていると説明を受けました。

疾病の予防の基本は、「一次予防：病気になるようにする」「二次予防：早期発見」「三次予防：治療してそれ以上の悪化を防止する」だそうです。

また、がん教育の目標は、①がんを身近な病気ととらえ、がんの予防、早期発見・検診等に関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。②がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育てると説明されました。がん教育は、人生100年を健康に豊かに生きるための大切な「生き方教育」なのかもしれません。

（文責 校長 江木祥泰）